

## 年中組

### 「色を混ぜよう！色の変化を楽しもう！」

～「やってみたい！」を大切にしたい、全身を動かしながらの大胆な色混ぜ探究活動～

年中組

つき組 23名 (男児12名・女児11名) 教諭E 29年目・教諭F 1年目

すいせい組 22名 (男児11名・女児11名) 教諭G 28年目・教諭H 1年目

きんせい組 20名 (男児11名・女児9名) 教諭I 8年目・教諭J 1年目

#### 【年中組のすくわくプログラム開始以前の 色にかかわる活動の実態】

1～2学期

「絵の具と障子紙によるにじみ絵あそび（製作）」各クラス

「絵の具をつけたビー玉転がしによる模様づくり（製作）」各クラス

「ブッシュアート（製作）」つき組・「マーブリング（製作）」きんせい組

11月「絵の具の混ぜ合わせ（表現→ふくろうのそめものや）」すいせい組

クリスマス祝会にクラスで取り組む劇「ふくろうのそめものや」の大道具を作成しながら、ストーリーさながらの混色をふくろうになりきって遊びながら行いました。「〇色と〇色を混ぜたら何色になるのかと、画用紙に筆を使って好きな絵の具の色を混ぜる実験あそびを楽しむ中で、劇中に出てくるよくばりカラスのように、いろいろ混ぜ過ぎた幼児が本当に黒っぽい色をつくり出し、クラス全体で実体験として、驚き合い、笑い合いながら、共有し合うことができました。

また、「ふくろうさんの羽も染めよう！」と障子紙を使ってマーカーの色がにじみ、混ぜり合っていくのも楽しみ合いました。

1月「白木こまのポスカによる色・模様づけ（製作→オリジナルこま）」各クラス

・まわした時の色の混ぜり合いを面白がり、色を重ねて塗ってはまわしを繰り返し、その色の変化を不思議がり、次々に試していました。（つき組）

・黄色と赤、交互に色づけをした幼児がこまをまわし、「オレンジに見える！」という発見をし、直接を混ぜていないのに変化することに驚いていました。（きんせい組）

年中組では、実態を踏まえ、「色を混ぜ合わせることとその変化を楽しむ幼児の探究活動やその展開」の取り組みを、いろいろな絵の具あそびを通して行うことにしました。

## つき) 「色いろまぜまぜあそびから青い空に絵を描こう!への展開」

### ○2月5日「色いろまぜまぜあそび(紙皿パレット・絵の具「赤青黄と白」)」

絵の具「赤青黄(三原色)と白(途中から)」の中から、筆で好きな色を紙皿パレットにとり、まぜまぜあそびを存分に楽しみ、できた色で画用紙に絵や模様を描きました。

混ぜあって新しい色に変わると、驚きや喜びを表し、パレット上で色が増え、重なり合い、さらに色が変化していくと、「こんな色になった」「おもしろい」と夢中になり、手のひらも駆使してやってみたいことをどんどん試していました。

【振り返り】一人ひとりの試しや発見を発表し、クラス全体でも共有できるようにしたい。



### ○2月6日「『まぜまぜ画用紙』『まぜまぜパレット』から好きな色を見つけよう」

土橋先生の助言を踏まえ、紙皿パレット上で混ぜた色も作品として、まぜまぜ画用紙とパレット両方を壁面に飾り、みんなで見合いながら、好きな色を発表し合う場を設けました。友達が発表する色に対し、「何の色だろう」「茶色っぽいオレンジだ」「いろいろな色がある」など、たくさんの色を共有し合う中で、それらに興味を示して思ったことを発言したり、自由遊びでクレヨンの色と色を塗りまぜて試してみたりする姿にもつながりました。

【振り返り】さらにいろいろな色への興味を広げられるよう、素材を工夫して働きかけたい。



### ○2月20日「まぜまぜゆびえのぐがサイコロに!?(サイコロ展開図型厚紙)」

ゆびえのぐ「9色」を使い、T字「サイコロ展開図型」の厚紙に、指を使って自由に色を塗り進めました。見慣れないT字の厚紙にわくわくしながら、それぞれにやってみたいと思うことを自由に試し、色の重なりや混ぜり合い、さまざまな発見を楽しんでいました。



土橋先生より、1本の指で、色を変える度に拭かなくても、10本とも指が使えることを助言していただき、幼児たちにも働きかけてみたところ、「指の筆10本もあるよ!」と早速に試し始め、複数の指で混ざり合う色に驚いたり、5本指で「虹」を表現して満足したり、色・塗り方ともに可能性の広がりも感じていました。また、乾いたT字を組み立てると歓声をあげ、立体への変化、それに伴う色の見え方の変化に驚き、「友達の作品と合わせたらどうなるかな?」と、積んだり組み合わせたりいろいろ試して、複数になることでの見え方の変化も楽しみました。

【振り返り】その気づきを大切に、次の活動にも生かしていきたい。

### ○2月27日「みんなで空を描こう! (フィンガーペイント・絵の具)」

部屋中に敷いたブルーシートの上に広げた、大きな紙のキャンパスに、クラスのみみんなで空をつくることにしました。

「こんな色にしてみたい」「ここに青くしたらどうなるかな」「白を混ぜたらどうなるかな」など幼児同士で考え合い、試し合い、自由に移動しながら手や足も使って描き、空の色が変わっていく様子を、実体験とも重ね、のびのびと楽しみながら作ることができました。



【振り返り】達成感を味わえた。

### ○3月2日「青い空に絵を描こう♪ (ゆびえのぐ)」

しばらく壁面に飾っていた青い空に、みんなの大好きな歌の歌詞のように「本当に好きな絵を描いてみよう!」ということになりました。「虹がいい」「船にしよう」「象を描きたい」など、描いてみたいものをそれぞれにイメージしながらゆびえのぐで描き進めました。その中で、「この色を混ぜるとこんな色になる」と必要な色づくりに経験を生かす姿も見られました。



【振り返り】話しあいながら一緒に描いたり、その絵を見合って楽しんだり、青い空にだんだんと一人ひとりがのびやかに描いた絵が重なり合っていた。一人で描く画用紙ではあり得ない、そんな様子にびっくりしたり喜んだり、大きな空にみんなの絵が完成して、一人では味わえない満足感を得ていた。



## すいせい) 「ふくろうのそめものごっこから 3 惑星製作への展開」

### ○2月5日「フィンガーペインティング（絵の具）」

絵の具4色「赤、青、緑、黄」を最初は2色から、手で混ぜ合わせていきました。

感触に歓声をあげ、ワクワクした表情をしながら、赤と青の時には、「ブルーベリー」「お芋」など、身近な食べ物に例えて伝え合う姿がありました。また、同じ色を混ぜても、青っぽい紫や赤っぽい紫など、それぞれ違う色になったことに気づき合いました。好奇心から、ほとんどの幼児が全色を



を使い、いろいろな色に混ざり合っていく様子を楽しんでいました。そこから、ひっかいたり、上から指で何かを描くような動きをしている幼児が下から浮き出てくる色を発見して、おもしろそうに何度もひっかいていました。

また、手の色や手洗い用のバケツの水も、どんどん変化していく様子を見せ合ったり、興味深く眺めたりし合っていました。

【振り返り】 幼児のポジティブな気持ちや感覚をさらに支えるようにしたい。

### ○2月6日「自分のつくった色からイメージを広げてみよう！（クレヨン）」

土橋先生の助言を踏まえ、次への展開として混ぜた色からイメージして、好きな絵を描き加えました。



【振り返り】 一人ひとりが、自分のつくった色ならではのイメージを広げ、恐竜や海の生き物、星や花などを思うままに表現して楽しんでいた。

### ○2月10日「ジュースをつくろう！（絵の具・透明容器・水）」

作りたいジュースをイメージしながら色を混ぜることを伝え、透明な容器に水と絵の具4色「赤、黄色、青、白」の中から選び、筆で混ぜました。



混ぜり方を楽しみ、友達と同じ色を混ぜても、分量によって全く同じにならないことを発見し、少しずつ絵の具を足すことで色が濃くなっていく様子や、白い絵の具を使い色が薄くなる様子を見せ合い、「ぶどうジュース」「濃いオレンジジュース」と完成を喜び合いました。

つくった色をグループで混ぜると「ふくろうのそめものやさん」のように、「黒くなるのか」、「どのグループも同じ色になるのか」の実験も行いました。混ぜた色は何ジュースかグループごとに話し合い、みんなの前で発表した。最後に、小さいペットボトル容器に自分だけのオリジナルジュースを作り、持ち帰りました。



【振り返り】活動内容を保護者に具体的に示せてよかったと思う。

## ○2月20日「宇宙製作「宇宙ってどんな色？(フィンガーペインティング・絵の具)」

前日、グループごとに「宇宙ってどんな色？」と考え合った色をもとに、フィンガーペインティングで宇宙づくりをしました。歓声をあげ、だんだん混ぜ合っていくと、「色が変わってきた」「もっと青を入れたい」「もう少し白がほしい」など、色を足しながら変化を楽しんでいました。



指で引っ搔いて星を描く姿も！下から浮き出てくる色に驚いて何度も何度も繰り返し、気づくと足でもぬりぬりして感触を楽しみました。

【振り返り】幼児から意見がどんどん出るようになった。雰囲気づくりに気をつける。



## ○2月27日「宇宙と言ったら？ ロケット！（牛乳パック・ゆびえのぐ）」

宇宙づくりからの展開として、宇宙に何があるか問いかけると、ロケットという声がたくさん上がったので、まず、牛乳パックでロケットづくりをすることとしました。



色と模様は、魔法の絵の具（すぐ乾くゆびえのぐ）7色「赤、青、黄色、黄緑、オレンジ、白、ピンク」を使うと伝えると、新

しい素材に期待を膨らませながら、手で色を広げたり混ぜたりしながら、思い思いに表現する姿が見られました。

その中で、色が混ざることをおもしろがったり、イメージしたものにしようと工夫したりする様子があり、それぞれの個性が表れたロケットが完成しました！

【振り返り】幼児数名が自信を持って、自分たちのロケットについて説明する姿があった。

### ○3月5日「宇宙にゆび絵の具で星を描こう！」

先日つくった宇宙に、チームごとにゆび絵の具で星を描くことにしました。

それぞれのチームでひとりひとりがイメージを膨らませ、のびのびと楽しめていました。細かく時間をかけて丁寧に行なっているチームもありました。

この活動を始めてから、幼児から宇宙の本を見せてほしいと伝えにくるなど、宇宙への興味がひろがっていますが、その影響もあり、年中児としては内容濃い活動となりました。

【振り返り】幼児がのびのびと楽しめているようにしっかり支える言葉をさらに考えたい。



### ○3月10日「進級クラス かせい・もくせい・どせいをつくらう！（絵の具）」

クラス発表を受け、新クラスのグループに別れて、かせい、もくせい、どせいの惑星づくりをしました。

事前に写真を見ながら、自分の進級クラス名の惑星にはどのような模様があるのか話し合い、見比べながら下書きを進めました。

色をつける際は相談し合い、「ここ塗るね」「じゃあここお願い」と声をかけ合って役割を決め、友達と協力しながら完成させました。

最後にそれぞれのクラスの惑星を目指して、前回作ったロケットを打ち上げると、満足感と、期待感をもって作品を見ている幼児の姿がありました。

【振り返り】色を塗る中で、複数の色を重ねたり混ぜたりしながら表現する様子もあり、これまでの色遊びの経験が生かされていた。



## きんせい) 「色」の活動を通して、成長し合う幼児と教員

### ○2月2日「雪だるま製作(透明フィルム・色つき透明折り紙)」

透明フィルムに色つきの透明折り紙を貼り付けて、色と色が重なったらどうなるかを試しながら雪だるま製作を行いました。

思いおもいに貼っていく中で、光に当てると色が透けて綺麗に見えることに気づき、楽しんで見ていました。

【振り返り】「色と色とが重なったら」を教員主導で行なったが、幼児主体で開始したらさらに良かった。



### ○2月5日「○色+○色=○○色!(絵の具・手形スタンプ)」

絵の具4色「赤青黄白」を混ぜると何色になるか、全体で、2つの色から行いその都度共有しながら実験をしました。

教師の声かけから量を変えて混ぜてみることにすると、△色の量が少ない・多いによって同じ黄色でも薄い・濃いがあることに気づいていました。

【振り返り】色についての知識が土台となればと考え、初めにクラス全体で共有することにしたが、自分の順番がくるまで待つ時間が多く、受け身になる姿が気になった。探究心を育むというところでは、まずは自由に「やってみたい」と感じながらできるような環境をつくれたらよかった。



### ○2月20日「混ぜてつくった色で自由に描いてみよう!(絵の具・パレット)」

土橋先生の助言を踏まえ、絵の具4色「赤青黄白」を使って、幼児一人ひとりが探究心をもって色づくりができるよう環境づくりをしました。

「緑ができたから木を描こう」とまず色をつくり、その色から連想して絵を描く姿や、「海を描きたいから青と白を混ぜてみよう」と目的に向かって色をつくり出す姿もありました。また、友達がつくった色に興味をもって、何色を混ぜたか聞いてつくってみたら同じ色にはならない経験から、混ぜ合わせるもとの色の量によってできる色が変わることに気づき合っていました。

【振り返り】幼児一人ひとりが探究心をもてるような環境づくりが少しできたと思う。



### ○2月27日「惑星のきんせいを作ってみよう！」

前日、プロジェクターを使って、壁面に金星を映し出して、自分たちのクラス名の惑星「きんせい」がどんな色なのかを見て、気づいたことを口々に発表し、共有していました。また、太陽の当たり方によってきんせいの見え方が異なることも知り、満足していました。



何色を混ぜたらきんせいの色になるかを、これまでの経験から学んだことを生かして色づくり、一人ひとりのきんせいに塗っていきました。

【振り返り】それぞれが作った色をモザイクアートのように並べてクラスで大きいきんせいを製作したところ、友達のと合わさって本当のきんせいのような様子に喜び合い、クラスのつながりもさらに深まった。

### ○3月2日「好きな味のクリームをつくって おいしいケーキにしよう！（絵の具）」

一年間の作品を綴じる「おもいで」の表紙に、事前にケーキをつくっていました。そこに、好きな味のクリーム（絵の具）を塗って、ケーキの仕上げをしました。



おいしいケーキにしようと、はりきって取り組む中で、今までの色を混ぜてその変化を楽しんできた経験が生かされて、「ブドウ味にしたいけどもう少し薄い紫がいいから白を混ぜたい」など、幼児たちから発信がたくさんありました。

【振り返り】経験を生かした活動展開になってよかった。

### ○3月5日「宇宙製作（絵の具・スパッタリング）」

きんせいを作ったことの発展として、大きな黒い模造紙に筆でスパッタリング（白の絵の具）で星を表現しました。そこに、宇宙飛行士をもつくって、きんせいの近くを自分たちが飛んでいるようにしました。



【振り返り】なるべく幼児発信のアイデアとしたかったが、充実した活動だった。

### ○3月10日「桜（絵の具・フィンガーペインティング）」

新クラス発表を受け、進級後のクラスごとの友達と製作「桜の木→折り紙貼り絵・花→色を自分たちで作って手形」をして、つながりを感じられるようにしていきました。

【振り返り】今回、話し合いを働きかけていくと、グループごとに色の量を考えて話し合い、ピンクでも薄い・濃いを調整し「今濃いピンクができたから、次は薄いを作ろう」「白を多くしてみよう」と話し合いながら、できた色に納得して進めていた。



年中組すくわくプログラムを振り返って、いろいろな絵の具あそびで、色を混ぜ合わせてみることを通して、新しい色を見つけたり、色の変化に驚いたり、知ったり、などと、やってみたいことに意欲的に取り組み、さまざまな経験を楽しむことができました。その中で、一人の気づきや感じたことを、クラスの友達と共有することでみんなのものとしたり、一人ひとりのやってみたいことを合わせて、一つの作品をつくりあげたりする経験から、クラスのつながりも深められました。

終わりに、白百合女子大学准教授 土橋久美子先生に教育活動を参観、評価、助言をいただいたことで、学年として「探求」の認識を「環境を用意して幼児自身が・幼児たちで」試しながら行っていく活動」として位置づけていくことができました。また、汚れを恐れる傾向にあった絵の具あそびも、こんなにも臆することなく教師、幼児ともにのびのびと取り組めるようになり、手、足、全身を使って取り組み、感性もみがかれてたことも評価していただき、大きな経験・自信の一つとなりました。